

昭和56年度日本気象学会総会議事録

日時 昭和56年5月28日(木) 14.30~15.30

場所 日本教育会館

出席者数	150名
書面参加および委任状	613名
計	763名

1. 開会

小平理事より、総会の成立には、定款第38条により通常会員現在数3,691名の1/5すなわち738名以上の出席が必要であり、委任状によらない通常会員の1/25の148名以上出席することになっているが、委任状が613通きており、この会場に150名出席されており、計763名で総会は成立すると開会が宣言された。

議長選出

小平理事より、議長の選出は、定款第35条で出席会員の互選により決めることになっているが、慣例によれば大会委員長を推すことになるが、大会委員長は、理事長でもあるので浅井富雄会員を議長に推したいと語ったところ、満場一致で浅井富雄会員が議長に決定した。

2. 議長あいさつ

ただいま御指名によりまして、議長を務めさせていただくことになりました浅井です、皆様の御協力によりまして、総会が円滑に終了できますようお願いいたします。

3. 理事長あいさつ(岸保勘三郎)

会員数では、通常会員が113名増加して3691名となり、また賛助会員は、2社増加して43社となった。

当学会も御承知のとおり来年が創立100周年に当るので、一昨年来、常任理事会、全国理事会で記念事業について討議を重ねてきたが、その主なものは、「気象集誌」「天気」の特別号の発行である。

「気象集誌」については、「天気」「気象集誌」に投稿規程を告示したが、会員の関心が頗る高まってきている。外国のinvited paperの応募数が予想外に多く400頁になる見込みである。

この特別号は59巻1号であり、目下「気象集誌」編集委員会が鋭意準備中である。

「天気」については、“過去100年間の気象学における顕著な発見とその発展”をテーマにレビューを1年間にわたって掲載する。

なお、4月の特別号に「各支部での気象現象の調査研

究とその発展に関する座談会」の記事をのせる。また論文の総目録を作成、75周年以降の通史を編集する。

記念式典については、春季大会の前日の午後行い、引きつぎ会員外の著名人2名に記念講演を依頼すべく検討中である。夜は記念パーティを行う。

地方支部での特別講演会については、Large-scale Oceanographic Experimentsの研究会議が、5月に世界気候プログラムの一環として、大規模に気象庁において行われることになるので、出席者の外国人4名の方に、北と南に別れて講演をしてもらう計画である。

また、熱帯気象のRegional Technical Conferenceを記念シンポジウムとしてWMO、アメリカの気象学会と共催で秋に開催することも考えた。

終りに学会活動の報告としては、まず国際協力事業のことふれるが、FGGE(First Global GARP Experiment)が終了し、膨大なデータが入手できるので、利用について関係官庁に働きかけたい。また、MONEX(モンスーン実験計画)、POLEX(極実験計画)が今年で終了するので、成果を挙げた論文がでることでしょう。

MAP(中層大気観測計画)は今年からスタートするが、わが国も参加するし、今後興味ある研究発表が行われることと思われる。世界気候研究プログラム(WCRP)については、世界気候小委員会(学術会議付置小委員会)でわが国の計画が討議されているが、昨年12月8日学会と共催で気候変動シンポジウムを開催し盛会であった。

4. 気象学会賞授与

松本理事から、今回は多くの推薦があり、嬉しい悲鳴をあげたが、特に2名の方を選んだ理由の紹介があり、満場拍手のうちに岸保理事長から次の会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

森山 茂 会員：火星気象学の開拓

浅野正二 会員：大気微粒子—特に非球形粒子—による光散乱特性の研究

5. 藤原賞授与

松本理事から、学会賞同様多くの推薦の中から、1名を選んだ理由の紹介があり、満場拍手のうちに岸保理事長から初山政子会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

初山政子 会員：疾病・死亡率の季節変化に関する研究

6. 山本賞授与

内田理事から選定理由の紹介があり、満場拍手のうち

に岸保理事長から次の会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

安成哲三 会員：北半球夏季モンスーン時における雲量変動の解析（「気象集誌」第57巻第3号掲載）

7. 昭和55年度事業経過報告

小平理事から次のとおり説明が行われた。

- (1) 機関誌は、内容が充実し順調に発行された。「気象研究ノート」も予定どおり発行できた。好評に答え「天気」に“「ひまわり」の画像から”を引き続き掲載した。

「天気」は845頁で1か月平均70頁である。「気象集誌」は、625頁（58巻2号-59巻1号）となり、文部省へ申告の557頁を大幅に上回った。

- (2) 春季大会は、5月21日から23日まで日本教育会館で行われ、216編の研究発表が行われ、参加者は延1000名に達した。第2日目に総会が行われ、新田 勲会員に学会賞を、小倉義光会員に藤原賞を、中村 一会員に山本賞をそれぞれ授与した。また、会費値上げのための定款の一部が可決された。

- (3) 秋季大会は、10月29日から31日まで京都教育文化センターで行われ、大阪管区気象研究会と共催のため、講演数も245編の多きに達した。従って講演時間も1件12分に制限せざるを得なかった。参加者は延1000名に達した。

奨励金は大会第2日目に山中 博会員、若原勝二会員、中井公太会員、横山 博会員にそれぞれ授与した。

- (4) 第14回夏季大学は、7月28～31日まで日本教育会館で台風をテーマとして行い、また大阪でも昨年に引き続いて7月30日～8月1日まで台風をめぐってをテーマとして大阪市立労働会館で行われた。参加者は、東京63名、大阪135名であった。
- (5) 日本学術会議世界気候小委員会、文部省科学研究費環境科学特別研究検討班その他の学会と共催で、気候変動研究計画に関するシンポジウムを、12月8日と昭和56年2月9日に日本学術会議大会議室で開催し、大盛会であった。
- (6) 6月28日に山の気象シンポジウムを、また月例会として9月3日に「大気数値シミュレーション」を、56年3月5日に「レーダ気象」を、3月11日に「長期予報・大気循環」をそれぞれ気象庁で行った。一方、風に関するシンポジウムを他の学協会と共催

で55年12月9日気象研究所で実施した。

- (7) 「教養の気象学」を朝倉書店から、「続・気象学の手引」を当学会から刊行した。

- (8) 100周年記念事業について

「天気」「気象集誌」とともに、それぞれの編集委員会で、特別号の発刊のため実施計画を順調に進めている。すなわち

- (a) 「天気」特別号は、Vol. 29-4号とし、座談会90頁、レビュー40頁、通史20頁、総目録80頁等を特別に掲載する。

- (b) 「気象集誌」特別号は、Vol. 60-1号とし、外国からの招待論文の応募者が予想より多く、400頁になる見込みである。

- (c) 記念式典、記念講演等についても実施計画を進めている。

議長 以上の報告に対し質問を促したところ別に質問がないようですから次の議題にはいります。

8. 昭和55年度会計決算報告

荒井理事から別紙資料にもとずき次のとおり説明が行われた。

- (1) 収入の部

- ア. 会費収入は、会費値上げと会員増加のためにより予算額より約250万円の増収となった。
- イ. 「気象研究ノート」は、順調に発行されているが、この年度に限ると約250万円の減収となった。
- ウ. 文部省補助金は、前年度より23万円の増額となった。

- (2) 支出の部

- ア. 管理費の支出では、法人税の見直しが行われ、「気象研究ノート」収入が収益事業とみなされたためで50万円の税金を支払った。
- イ. 事業費の通信運搬費は、郵便料の値上げが遅くなったため、約82万円の減となった。
- ウ. 編集費の減約130万円と印刷製本費の減約300万円は、「気象研究ノート」の発行回数が増ったためである。
- エ. 基本財産に200万円を繰り入れた。
- オ. 記念事業の予算は、当初の計画案では950万円であったが、具体案に基づいてこれを1050万円とし、今年度積立預金を500万円とした。

議長 以上の報告に対し質問のある方挙手されるよう促したところ、

質問 税金を50万円支払われたのはやむをえないとの

説明であるが、一般会員にとって50万円は、会員1人当たり190円になる。どのようなことで査定を受けたか説明して欲しい。

答 これは、さきに説明したとおり、「気象研究ノート」収入が全額課税の対象となり税金がかかったもので、このことについては、機関誌上で会員にお知らせする。

議長 ほかに質問がないようでしたら、承認していただく前に監査報告をお願いします。

9. 昭和55年度監査報告

黒木理事から次のとおり報告された。

田中監事が4月1日付けで名瀬へ転勤となったので、5月8日に田中監事に出張してもらい監査を受けた。また当舎監事が病氣療養中のため、こちらから出張して監査を受けた。その結果が別紙のとおり報告された。(報告内容、別紙収支計算書の5頁参照)

以上、昭和55年度決算報告、監査報告について、議長が賛成者の挙手を求めたところ、圧倒的多数の挙手があったので承認された。

10. 昭和56年度事業計画案

小平理事から、次のとおり説明が行われた。

- (1) 「天気」「気象集誌」「気象研究ノート」を、なお一層充実したものにし、「天気」に“「ひまわり」の画像から”を引き続き掲載する。
- (2) 春季大会は、5月27日から5月29日まで、日本教育会館で開催し、講演発表数も236編の多きに達している。大会第2目目に総会が行われ、森山 茂会員、浅野正二会員にそれぞれ学会賞を、榎山政子会員に藤原賞を、また安成哲三会員に山本賞を授与する。
- (3) 秋季大会は、12月1日から3日まで愛知県中小企業センターで開催する。大会第2目目に奨励金を授与する。
- (4) 夏季大会は、8月10日から13日まで日本教育会館で行う。テーマは熱収支と気候変動である。また、大

阪でも引き続いて8月4日から6日まで大阪市立労働会館で行う。テーマは大気の流れである。

- (5) 気候変動シンポジウムを引き続いて開催する。
- (6) 山の気象シンポジウムを6月20日気象庁で行う。また各種月例会も引き続いて行う。
- (7) 来年に迫った100周年記念事業については、それぞれの担当分野で精力的に準備を進めてゆく。

議長 次の昭和56年度予算書(案)が終ってから質問を受けます。

11. 昭和56年度予算書(案)

荒井理事から、別紙資料にもとずき、予算編成の方針と内容について次のとおり説明が行われた。

前年度と大体同じで特に大きな違いはない。

- (1) 管理費の印刷製本費は、選挙関係用紙類の印刷、名簿の作成等がなくなったため大幅な支出減とした。
- (2) 昭和56年度から建物借料として、年間33万円を気象庁に支払うことにした。
- (3) 臨時雇賃金が増えたのは、「学術用語集」編集と倉庫整理等に要する賃金である。
- (4) 事業費の印刷製本費は、「続・気象学への手引」の発刊がなくなったので支出減とした。

なお、学会創立100周年記念事業計画書(案)も別紙のとおり説明が行われた。

議長 昭和56年度事業計画(案)、予算書(案)についてご審議願いたい。質問がないようですから賛成の方の挙手をお願いしたところ、圧倒的多数で承認された。

12. その他

昭和57年の秋季大会は、北海道支部が当番に当るのでよろしく願います。

議長 以上で私の議長としての任務を解かせていただきますが、皆様の御協力によりまして、議事が円滑に終了しまして誠にありがとうございました。

(589頁より続く)

6. その他

田中理事から POLEX ニュース が配布に

なり説明があった。

承認事項：高橋日出男ほか17名の新入会員を承認。

収 支 計 算 書

(昭和55年4月1日から昭和56年3月31日まで)

収入の部

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
会費収入			25,851,100	28,496,926	2,645,826	
	通 常 会 員 費 収 入	個 人 会 員 費 収 入	18,121,950	20,474,676	2,352,726	
	団 体 会 員 費 収 入	団 体 会 員 費 収 入	4,001,550	4,171,913	170,363	
	外 国 人 会 員 費 収 入	外 国 個 人 会 員 費 収 入	677,600	557,956	△119,644	
		外 国 団 体 会 員 費 収 入	440,000	492,581	52,581	
	賛 助 会 員 費 収 入	賛 助 会 員 費 収 入	2,610,000	2,799,800	189,800	
事業収入			18,225,000	15,695,357	△2,529,643	
	気象研究ノート 収 入	気象研究ノート 収 入	12,805,000	10,291,362	△2,513,638	
	予 稿 集 収 入	予 稿 集 収 入	1,520,000	2,146,770	626,770	
	そ の 他 収 入	そ の 他 収 入	3,900,000	3,257,225	△642,775	初任者気象研修 papers 書店扱 気象学への手引
補助金収入			2,170,000	2,400,000	230,000	
	文 部 省 補 助 金 収 入	科 学 研 究 費 収 入	2,170,000	2,400,000	230,000	
雑収入			8,000,000	8,004,830	4,830	
	雑 収 入	雑 収 入	8,000,000	8,004,830	4,830	受取利息, 別刷, 投稿料, 広告料, その他
基本財産収入			600,000	1,060,535	460,535	
	基 本 財 産 収 入	預 金 収 入	600,000	1,060,535	460,535	
収 入 計			54,846,100	55,657,648	811,548	

勘定科目			予算額 (円)	決算額 (円)	差異 (円)	備考
大科目	中科目	小科目				
前期繰越金			15,214,336	15,214,336	0	
	前受金	前納会費	13,214,100	13,214,100	0	昭和55年4～12月の前納会費
	前期繰越額	前期繰越額	2,000,236	2,000,236	0	
合計			70,060,436	70,871,984	811,548	

支出の部

勘定科目			予算額 (円)	決算額 (円)	差異 (円)	備考
大科目	中科目	小科目				
管理費			10,707,000	11,331,147	624,147	
	給料手当	給料手当	4,419,000	4,614,686	195,686	
	退職金	退職金				
	退職給与引当金繰入額	退職給与引当金繰入額	100,000	100,000	0	
	福利厚生費	福利厚生費	300,000	295,583	△4,417	
	会議費	会議費	500,000	448,775	△51,225	
	旅費交通費	旅費交通費	404,000	168,000	△236,000	
	通信運搬費	通信運搬費	1,000,000	1,115,034	115,034	
	什器備品費	什器備品費	100,000	113,844	13,844	
	消耗品費	消耗品費	50,000	65,396	15,396	
	印刷製本費	印刷製本費	1,650,000	1,465,660	△184,340	
	租税公課	租税公課	10,000	509,640	499,640	
	雑費	雑費	850,000	1,022,529	172,529	
	支部交付金	支部交付金	1,324,000	1,412,000	88,000	

勘 定 科 目			予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	差 異 (円)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
事業費			41,622,700	35,773,937	△5,848,763	
	図書購入費	図書購入費	200,000	268,500	68,500	
	臨時雇賃金	臨時雇賃金	288,000	193,980	△94,020	
	会議費	会議費	1,477,000	1,137,200	△339,800	
	旅費交通費	旅費交通費	150,000	150,000	0	
	通信運搬費	通信運搬費	3,586,800	2,766,073	△820,727	
	編集費	編集費	3,556,800	2,258,860	△1,297,940	
	印刷製本費	印刷製本費	31,547,100	28,200,210	△3,346,890	天気、気象集誌 papers, 予稿集
	負担金	負担金	7,000	4,250	△2,750	
	雑費	雑費	300,000	284,864	△15,136	
	学会費支出	学会費支出	100,000	100,000	0	
	藤原賞支出	藤原賞支出	100,000	100,000	0	
	山本賞支出	山本賞支出	100,000	100,000	0	
	奨励金支出	奨励金支出	210,000	210,000	0	
基本財産			0	2,000,000	2,000,000	
	基本財産	基本財産	0	2,000,000	2,000,000	
積立預金			2,000,000	5,000,000	3,000,000	
	退職給与積立預金支出	退職給与積立預金支出	0	0	0	
	記念事業準備積立預金支出	記念事業準備積立預金支出	2,000,000	5,000,000	3,000,000	
予備費			300,000	0	△300,000	
	予備費	予備費	300,000	0	△300,000	
	支 出 計		54,629,700	54,105,084	△524,616	
次期繰越金			15,430,736	16,766,900	1,336,164	昭和56年4～12月の前納会費
	前受金	前納会費	13,949,100	13,949,100	0	
	次期繰越支差額	次期繰越支差額	1,481,636	2,817,800	1,336,164	
	合 計		70,060,436	70,871,984	811,548	

財 産 目 録

(昭和56. 3. 31現在)

社団法人 日本気象学会

理事長 岸 保 勘三郎

資産総額 43,641,300 円

1. 基本財産(基本金, 基金) 14,150,000 円

不 動 産 0 円

動 産 14,150,000 円

種 類	預 入 先	金 額	現在高	備 考
貸付信託	住友信託銀行(新橋支店)	9,650,000	9,650,000	基 本 金
貸付信託	住友信託銀行(新橋支店)	3,000,000	3,000,000	山 本 賞 基 金
貸付信託	住友信託銀行(新橋支店)	500,000	500,000	藤 原 賞 基 金
貸付信託	三井信託銀行(本 店)	1,000,000	1,000,000	藤 原 賞 基 金
計		14,150,000	14,150,000	

2. 積立金 11,120,000 円

種 類	預 入 先	金 額	現在高	備 考
貸付信託	住友信託銀行(新橋支店)	2,000,000	2,000,000	記 念 事 業 積 立 金
貸付信託	三井信託銀行(本 店)	3,500,000	3,500,000	記 念 事 業 積 立 金
定期預金	協和銀行(本 店)	5,000,000	5,000,000	記 念 事 業 積 立 金
金銭信託	住友信託銀行(新橋支店)	620,000	620,000	退 職 給 与 積 立 金
計			11,120,000	

3. 運用財産 16,766,900 円

種 類	預 入 先	金 額	現在高	備 考
普通預金	第一勧業銀行大手町支店	8,194,360	8,194,360	
普通預金	住友銀行神田支店	0	0	
郵便振替貯金	東京中央郵便局貯金課	42,574	42,574	
定期預金	協和銀行本店	6,000,000	6,000,000	
定額預金	東京中央郵便局貯金課	2,500,000	2,500,000	
現 金	手 許 保 管	29,966	29,966	
計		16,766,900	16,766,900	

4. 什器備品 1,604,400 円

日本気象学会監査報告

1. 監査月日 昭和56年5月8日
 1. 監査場所 東京都千代田区大手町 1-3-4
 日本気象学会事務局

1. 監査内容

- | | |
|----------------|----------------|
| 1) 昭和55年度収支計算書 | 6) 備品台帳 |
| 2) 収入簿 | 7) 領収証綴 |
| 3) 支出簿 | 8) 預金証書及普通預金通帳 |
| 4) 現金出納簿 | 9) 郵便振替受払通知票綴 |
| 5) 預金出納簿 | 10) 国庫金送金通知書綴 |

1. 監査意見

監査の結果、昭和55年4月1日から昭和56年3月31日までの会計年度の収支計算書は正しいものと認める。帳簿類の記帳は正確であり、整理もよくなされている。

会費の収入状況は良好であり、会費の前納率は98%に達している。

事務局業務は事務の能率化をはかって居り、このため財政の安定に寄与していることを多とする。また財政の安定に伴い学会活動は一層活発化しているかつ、これは各理事、各委員の努力に負うところが大きい。

気象学会は近く創立百周年を迎え、これを機にさらに学会の飛躍的發展を希望する。

昭和56年5月8日

監事 田中貞三 ㊟
 当舎 万寿夫 ㊟

予 算 書 (案)

(昭和56年4月1日～57年3月31日)

収入の部

勘 定 科 目			予 算 額 (円)	前 年 度 予 算 額 (円)	増 減 (円)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
会費収入			29,028,000	25,851,100	3,176,900	
	通 常 会 員 収 入	個 人 会 員 収 入	20,892,800	18,121,950	2,770,850	
	団 体 会 員 収 入	団 体 会 員 収 入	4,326,000	4,001,550	324,450	
	外 国 人 会 員 収 入	外 国 個 人 会 員 収 入	644,400	677,600	△33,200	
		外 国 団 体 会 員 収 入	454,800	440,000	14,800	
	賛 助 会 員 収 入	賛 助 会 員 収 入	2,710,000	2,610,000	100,000	
事業収入			14,167,700	18,225,000	△4,057,300	
	気 象 研 究 ノ ー ト 収 入	気 象 研 究 ノ ー ト 収 入	10,067,700	12,805,000	△2,737,300	
	予 稿 集 収 入	予 稿 集 収 入	1,500,000	1,520,000	△20,000	
	そ の 他 収 入	そ の 他 収 入	2,600,000	3,900,000	△1,300,000	初級者気象研修 papers 書店扱
補助金収入			2,400,000	2,170,000	230,000	
	文 部 省 補 助 金 収 入	科 学 研 究 費 収 入	2,400,000	2,170,000	230,000	
雑収入			7,700,000	8,000,000	△300,000	
	雑 収 入	雑 収 入	7,700,000	8,000,000	△300,000	別刷 投稿料 広告料 受取利息 その他
基本財産収入			900,000	600,000	300,000	
	基 本 財 産 収 入	預 金 収 入	900,000	600,000	300,000	
収 入 計			54,195,700	54,846,100	△650,400	

勘定科目			予算額 (円)	前年度 予算額 (円)	増減 (円)	備考
大科目	中科目	小科目				
前期繰越金			16,766,900	15,214,336	1,552,564	
	前受金	前納会費	13,949,100	13,214,100	735,000	
	前期繰越額	前期繰越額	2,817,800	2,000,236	817,564	
合計			70,962,600	70,060,436	902,164	

支出の部

勘定科目			予算額 (円)	前年度 予算額 (円)	増減 (円)	備考
大科目	中科目	小科目				
算理費			11,183,000	10,707,000	476,000	
	給料手当	給料手当	4,674,000	4,419,000	255,000	
	退職金	退職金	0	0	0	
	退職給与引当金繰入額	退職給与引当金繰入額	100,000	100,000	0	
	福利厚生費	福利厚生費	350,000	300,000	50,000	
	会議費	会議費	550,000	500,000	50,000	
	旅費交通費	旅費交通費	507,000	404,000	103,000	
	通信運搬費	通信運搬費	1,300,000	1,000,000	300,000	
	什器備品費	什器備品費	150,000	100,000	50,000	
	消耗品費	消耗品費	100,000	50,000	50,000	
	印刷製本費	印刷製本費	360,000	1,650,000	△1,290,000	
	賃借料	建物借料	330,000	0	336,000	
	租税公課	租税公課	400,000	10,000	390,000	
	雑費	雑費	950,000	850,000	100,000	
	支部交付金	支部交付金	1,412,000	1,324,000	88,000	

勘定科目			予算額 (円)	前年度 予算額 (円)	増減 (円)	備考
大科目	中科目	小科目				
事業費			41,084,300	41,622,700	△538,400	
	図書購入費	図書購入費	200,000	200,000	0	
	臨時雇賃金	臨時雇賃金	888,000	288,000	600,000	
	会議費	会議費	1,496,000	1,477,000	19,000	
	旅費交通費	旅費交通費	125,000	150,000	△25,000	
	通信運搬費	通信運搬費	4,395,600	3,586,000	808,800	
	編集費	編集費	3,577,700	3,556,800	20,900	
	印刷製本費	印刷製本費	29,585,000	31,547,100	△1,962,100	天気, 気象集誌, papers 予稿集, 初級気象研修
	負担金	負担金	7,000	7,000	0	
	雑費	雑費	300,000	300,000	0	
	学会賞支出	学会賞支出	100,000	100,000	0	
	藤原賞支出	藤原賞支出	100,000	100,000	0	
	山本賞支出	山本賞支出	100,000	100,000	0	
	奨励金支出	奨励金支出	210,000	210,000	0	
基本財産 繰入			0	0	0	
	基本財産 繰入	基本財産 繰入	0	0	0	
積立預金 支出			0	2,000,000	△2,000,000	
	退職給与積立 金支出	退職給与積立 金支出	0	0	0	
	記念事業準備 積立預金支出	記念事業準備 積立預金支出	0	2,000,000	△2,000,000	
予備費			300,000	300,000	0	
	予備費	予備費	300,000	300,000	0	
支出計			52,567,300	54,629,700	△2,062,400	
次期繰 越金			18,395,300	15,430,736	2,964,564	
	前受金	前納会費	16,494,000	13,949,100	2,534,900	昭和57年4～12月の前納会 費
	次期繰 越差額	次期繰 越差額	1,901,300	1,481,636	419,664	
合計			70,962,600	70,060,436	902,164	

(注) 租税公課の増加理由

当学会の事業収入の中で課税対象になるのは、「気象研究ノート」収入、別刷代、書店取扱収入で、これから印刷製本費、編集費、原稿料等の必要経費を差し引いて利益があれば課税される。更に「気象研究ノート」の在庫があれば、原価を差し引いた額に課税されることになっている。

昭和55年度の租税公課の増加は、「気象研究ノート」の在庫数に課税されたものである。

気象学会創立百周年記念事業計画書（案）

昭和56年 5月28日

記念事業の当初の計画では950万円で、そのうち550万円が昨年度までに積み立てられた。残額の400万円は55、56年のそれぞれの年度で200万円積み立てる予定であった。

記念事業に関する計画を具体的に検討した結果、「気象集誌」特別号の頁数が予定より増加した等により、予算が不足することが見込まれた。

このため当初の計画に100万円を追加して1,050万円で記念事業を行うこととした。

記念事業の計画案は次のとおりである。

項 目	内 容	予算額(万円)
天 気 特 別 号	4月号をあて、座談会20頁、レビュー40頁、通史20頁、総目録80頁の計160頁。通常号分200万円を加えて発行する。	310
気象集誌特別号	400頁、invited paper が予想より多くなり、50編となった。	410
記 念 式 典	記念講演講師謝礼(2名)20万円、会場費20万円、功労者への記念品10万円、懇親会補助20万円、雑費10万円。	80
記 念 講 演	Ocean Impact Study Conference の参加者から2名は仙台・札幌、他の2名は大阪・福岡で講演を依頼。交通費宿泊料40万円、支部へ助成金40万円。	80
Tropical Meteorology	会議準備費(通信費等)10万円、会場費(5日間)等50万円、Reception費用補助10万円、雑費20万円。	90
其 他	気象集誌特別号編集費5万円、通史編集のための賃金20万円。	25
予 備 費		55
計		1050

正 誤 表 (下記の通り誤植がありましたのでお詫びして訂正させていただきます)

巻 号	頁	行	誤	正
28. 7	418	右 26	金 吉 正 郎	金 光 正 郎
28. 7	460	下 2	価 格 木 定	価 格 未 定
28. 7	460	下 5	時 田 達 志	時 岡 達 志